

町営キャンプ場施設『西古見GATE』運営状況に係る検証結果報告【令和7年度版】

※本施設のオープンは、R6.7.18

1.本検証結果報告の目的	→ 町営キャンプ場施設『西古見GATE』を建設する際に活用した、デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)に係る地域再生計画に基づき、各事業年度の自己点検及び自己評価を行い、必要に応じて瀬戸内町まち・ひと・仕事総合戦略や今後の事業経営方針に反映させる
--------------	--

2.主な報告内容	→ 各事業年度における3月末時点のKPI(重要業績評価指標)の達成状況
----------	-------------------------------------

3.KPIの設定・成果

○交付金事業における重要業績評価指標(KPI)の設定、及び成果の確認

		KPI 1	KPI 2	KPI 3	KPI 4
ア、本事業における重要業績評価指標(KPI)の名称		各施設の利用者数	各施設の収益	観光入込客数	移住相談件数
KPIの意味付け	イ、KPIの分類(大分類)	地域の魅力向上関連指標	地域経済活性化関連指標	地域の魅力向上関連指標	人口増加関連指標
	ウ、KPIの分類(対象)	交付金事業のアウトカム	交付金事業のアウトカム	総合的なアウトカム	総合的なアウトカム
KPIの当初値	エ、施設整備計画の申請時点	当初値 [単位]	当初値 [単位]	当初値 [単位]	当初値 [単位]
		0名	0千円	0名	0名
		計測年月	計測年月	計測年月	計測年月
		2022年3月	2022年3月	2022年3月	2022年3月
KPIの目標値設定	オ、令和6年度増加分	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]
		1,232名	1,104千円	33,000名	0名
		効果発現開始時期(見込)	効果発現開始時期(見込)	効果発現開始時期(見込)	効果発現開始時期(見込)
		2026年4月	2026年4月	2026年4月	2026年4月
KPIの実績値	カ、令和7年度増加分	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]
		3,696名	3,313千円	72,000名	1名
		効果発現開始時期(見込)	効果発現開始時期(見込)	効果発現開始時期(見込)	効果発現開始時期(見込)
		2026年4月	2026年4月	2026年4月	2026年4月
KPIの実績値	キ、令和6年度増加分の実績値	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]
		1,588名	1,424千円	-5,113名	1名
		目標値に対する達成度合い	目標値に対する達成度合い	目標値に対する達成度合い	目標値に対する達成度合い
		20% 目標値の達成は5割未満	23% 目標値の達成は5割未満	8% 目標値の達成は5割未満	0% 目標値の達成は5割未満
KPIの実績値	ク、令和7年度増加分の実績値	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]	目標値(増分) [単位]
		749名	773千円	5,704名	0名
		目標値に対する達成度合い	目標値に対する達成度合い	目標値に対する達成度合い	目標値に対する達成度合い
		20% 目標値の達成は5割未満	23% 目標値の達成は5割未満	8% 目標値の達成は5割未満	0% 目標値の達成は5割未満
ケ、当該年度実績値の目標達成・未達理由(達成または未達になった理由、及び未達の場合は今後の解決策(案))	→	当初のKPI目標値の過大設定は否めない。機械不具合による浴場営業停止期間(約3ヶ月)による影響あり。今後もHPやイベント開催など、各種広報周知に注力していく。	当初のKPI目標値の過大設定は否めない。機械不具合による浴場営業停止期間(約3ヶ月)による影響あり。今後もHPやイベント開催など、各種広報周知に注力していく。	当初のKPI目標値の過大設定は否めない。今後もHPやイベント開催など、各種広報周知に注力していく。	地区への移住者は存在したが、町への移住相談は無かったため

○交付金事業の効果(地方創生への効果)

事業効果	事業効果の内容・詳細
地方創生に効果があった	キャンプ場を利用する方を中心とする交流人口の増はもちろん、集落内の民間飲食施設の開店や集落移住者が施設運営開始後に現れ、地方創生に効果があったと思われる。なお、R7年度には集落内に新たに民間宿泊施設がオープンした。

○今後の施設運営に係る事業経営方針

内容	事業経営方針
施設の広報等に注力することによる営業収支改善	HPの内容充実や年賀状を活用した島内への広報、イベント開催及び豊かな自然環境を活用した民間ツアーとの連携により、来客数を増加させるとともに、運営にかかるランニングコストの削減をできることから実践し営業収支の改善を図る。また、R7年度に本町同地区に新たにオープンした農泊施設と連携しつつ、過疎化に向かう地区全体の活性化にも寄与する。